

臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立こども病院では、2024年1月23日付けで倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

研究の拒否	患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために試料・情報が使用・提供されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。
研究課題名	Schwachman-Diamond 症候群における白血病発症に関する国際共同研究
研究機関名	静岡県立こども病院
研究責任者	渡邊健一郎
研究期間	2024年1月～2029年1月
対象者	両アレルの SBDS 遺伝子に病原性変異を有する Schwachman-Diamond 症候群 (SDS) 患者
当該研究の意義・目的	Shwachman-Diamond (シュバツハマン・ダイヤモンド) 症候群 (SDS) は、骨髄不全と骨髄異形成症候群 (MDS) および急性骨髄性白血病 (AML) を発症する素因を特徴とする稀な遺伝性疾患です。造血幹細胞移植 (HSCT) は根治的治療ですが、MDS/AML を発症した患者の予後は、治療関連毒性および再発率が高く治療抵抗性であることが多いことから依然として不良です。至適な移植時期、方法については未だ確立されていません。本研究は、SDS における MDS/AML の発症率およびその転帰を調査し、発症に先立つ徴候をとらえるマーカーを同定することを目的とした後方視的観察研究です。これにより、SDS のフォローアップの方法や移植時期について最適化され、患者さんの予後改善が期待できます。多数例のデータが必要ですが、SDS は希少疾患であるため、ボストン小児病院を中心に、各国の SDS 研究者による国際共同研究となっています。
方法および研究で利用する試料・情報について	対象となる患者さんの診療録 (カルテ) から次の情報を調査し、ボストン小児病院のデータセンターに提供します。 ・体細胞変異、細胞遺伝学的異常、異形成、血球数の変化、骨髄細胞密度の変化 提供方法は以下の通りです。 <input type="checkbox"/> 直接提供 <input type="checkbox"/> 郵送 <input checked="" type="checkbox"/> 電子的配信 <input type="checkbox"/> その他 () 各患者さんに識別番号を割り付けて匿名化を行い、情報等の取扱いにはこの識別番号を用います。患者さんとこの番号を結び付ける対応表は、当院内で厳重に保管します。

個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の間合せ先にご相談ください。
資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、この研究において開示が可能であると考えられる範囲内で、この研究の計画や方法についての資料をご覧いただくことができます。
研究代表施設・代表者	ボストン小児病院 Akiko Shimamura
研究組織	「遺伝性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究」班 「特発性造血障害に関する調査研究」班
間合せ先	◆その他、この研究に関するお問い合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。 静岡県立こども病院 渡邊健一郎 代表 054-247-6251